

卒業生アンケート集計

2022年5月11日発送 184名(対象は2021年3月卒業生)

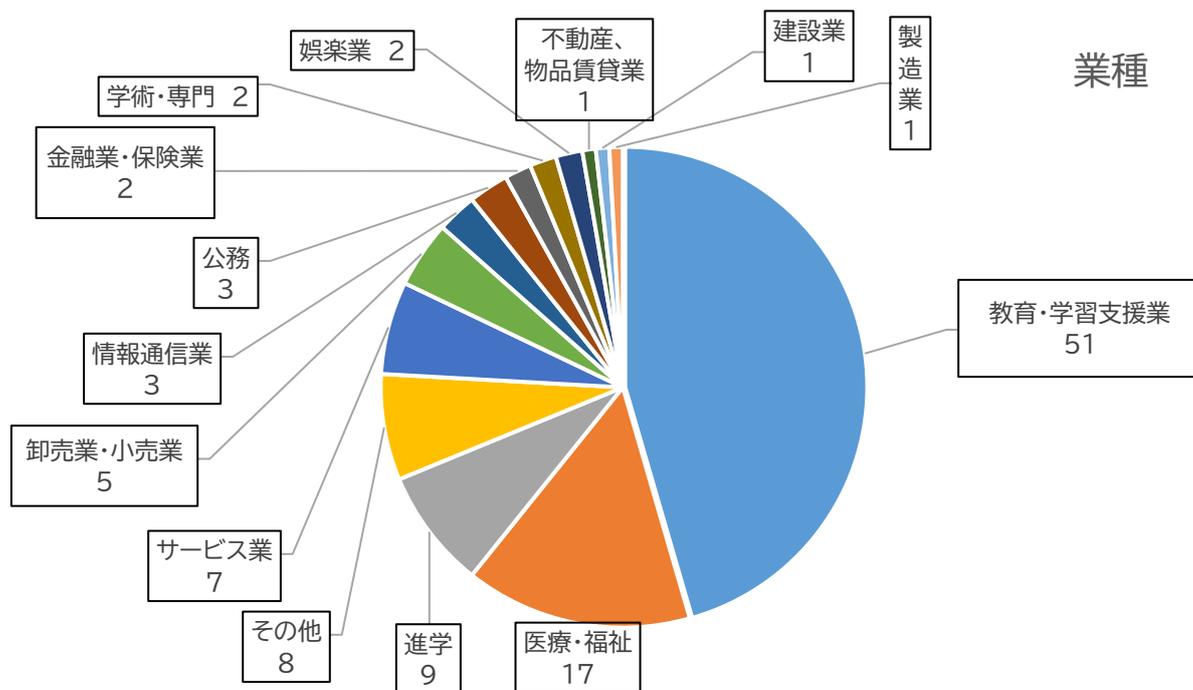
2022年6月17日締切

(人数)

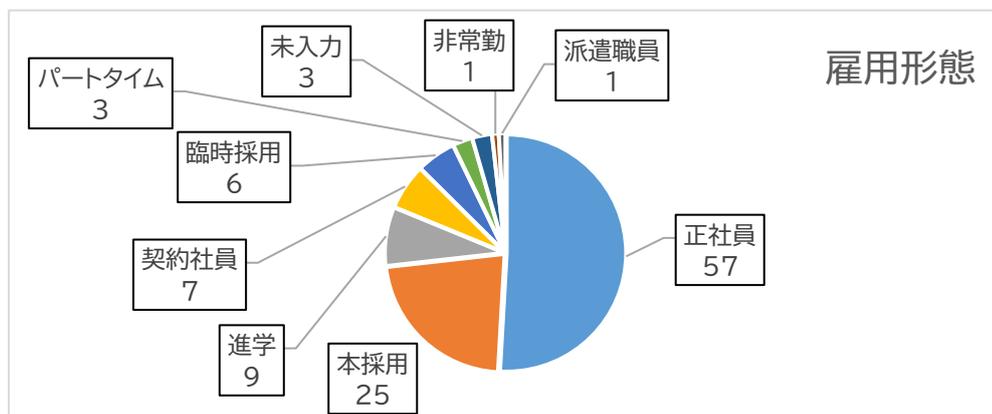
	発送数	宛先不明	回答数	男性	女性	回答率
CE 専攻	40	1	26	2	24	66.6%
保育コース	33	0	28	2	26	84.8%
児童教育コース	30	0	19	7	12	63.3%
心理臨床学科	81	2	39	8	31	49.3%
計	184	3	112	19	93	61.8%

有効配達181先に対し回答件数112件 回答率61.8%(参考:2021年度50.0%、2020年度23.1%)

Q2-① 勤務先、進学先



Q2-② 雇用形態



Q2-③ 退職、転職等

①81名:退職していない(72.3%)

②9名:転職した (8.0%)

③5名:退職後何もしていない(4.4%)

合計112名(うち10名は現在も大学院、専門学校)

*未回答の卒業生7名

キャリア・イングリッシュ専攻 2名

児童教育コース 5名

*退職後何もしていない卒業生5名

キャリア・イングリッシュ専攻 3名

保育コース 1名 心理臨床学科 1名

*転職した卒業生9名

キャリア・イングリッシュ専攻 2名

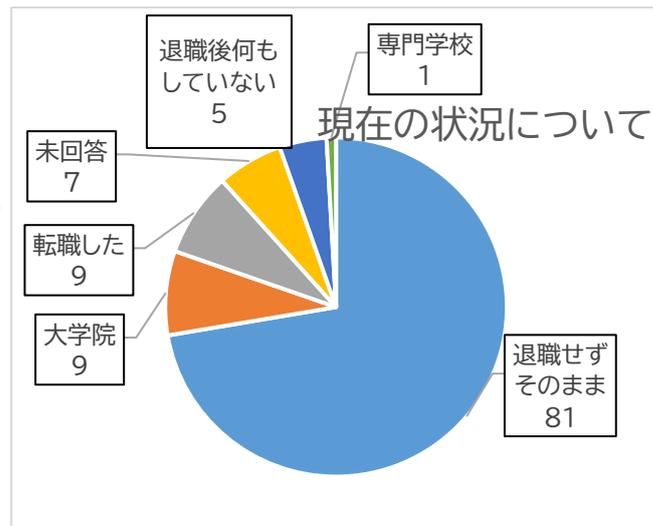
保育コース 3名 心理臨床学科 4名

*転職した理由

一身上の都合、労働環境、職場の雰囲気、航空業界の採用再開

*転職後の業種

医療・福祉、教育・学習支援業、宿泊業・飲食サービス業、学術・専門・技術サービス業



Q3-① 在籍時の学習成果がどのくらい身につけて活かされているか

5 身に付いている 4 概ね身に付いている 3 少しは身に付いている

2 あまり身に付いていない 1 身に付いていない

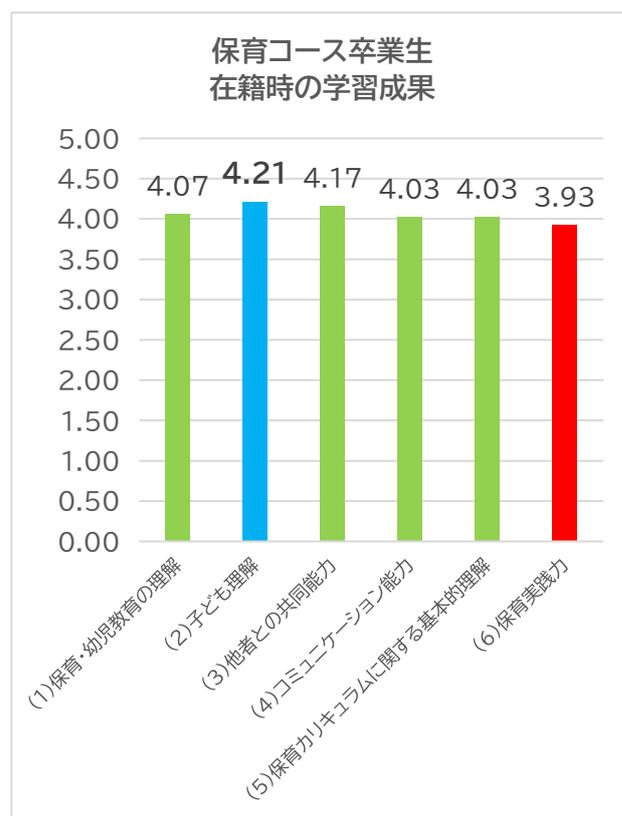
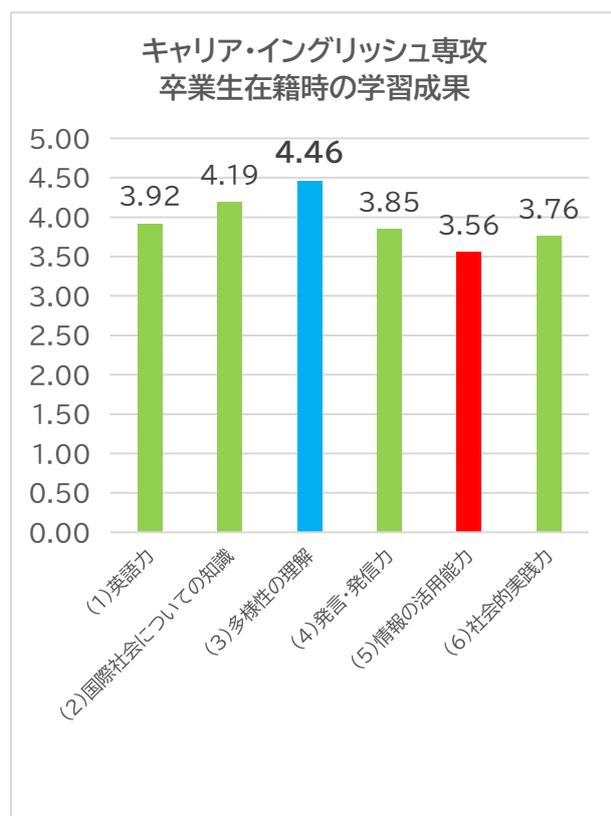
①本学の理念や教育目標について

	項目	内容
(1)	キリスト教精神の理解	キリスト教精神やそれに基づく感恩奉仕の精神を理解している
(2)	感恩奉仕の体現	ボランティア精神と倫理観を持ち、社会で自分の役割を果たしている
(3)	共生力	社会の動向に関心を持ち、また異なる文化や他者を理解し、その社会・文化の中で他者とともに協同することができる



キャリア・イングリッシュ専攻卒業生への質問(回答 26 名)

(1)	英語力	伝達媒体として英語の技能(読む、書く、聞く、話す)が向上している 英語の専門知識が身に付いている
(2)	国際社会についての知識	国際人となるための知識、世界情勢、グローバル・ビジネスに関する 知識が身に付いている
(3)	多様性の理解	日本を含む国際社会の多様なあり方・考え方を柔軟に捉えることができる
(4)	発言・発信力	修得した知識、自分の意見を言語化・具現化して表現できる
(5)	情報の活用能力	ITスキルを修得し、その知識・技術によって情報分析や情報発信に活用できる
(6)	社会的実践力	修得した知識・技能を実習や体験の場で活かすことができる

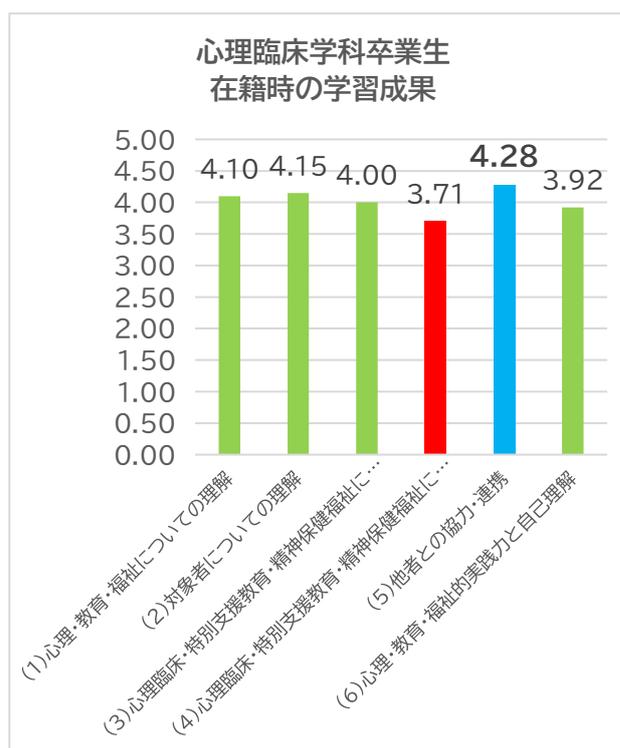
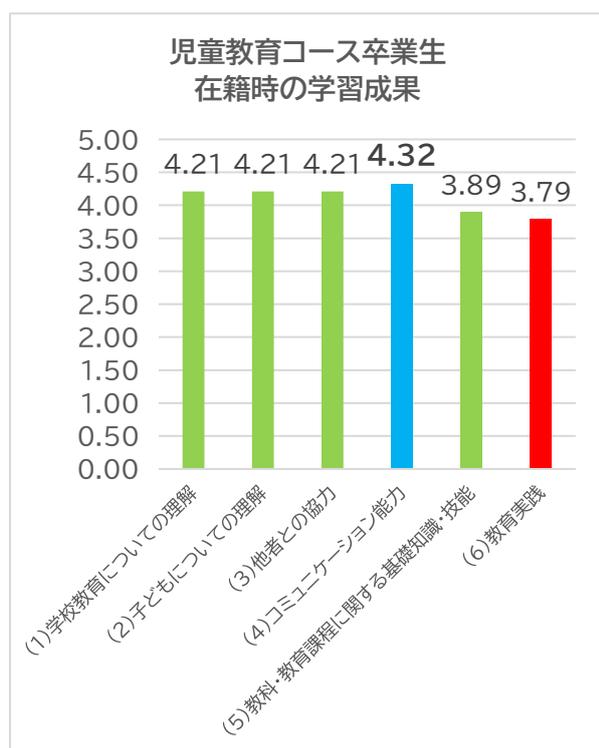


保育コース卒業生への質問(回答 28 名)

(1)	保育・幼児教育の理解	保育・幼児教育の意義、原理、理念、倫理観、法規、社会的役割に関する理解
(2)	子ども理解	保育心理学、発達心理学、保育・福祉、子育て支援に関する理解
(3)	他者との共同能力	グループワークの基本理解、保育現場における集団の理解、地域との連携に関する 基礎能力
(4)	コミュニケーション能力	保育現場における受容的態度、専門職としての対話能力、保育指導能力
(5)	保育カリキュラムに関する 基本的理解	保育カリキュラム、保育方法、情報機器の活用、保育指針・教育要領の基本的理解
(6)	保育実践力	PDCAサイクルを活かした保育計画立案と実践、クラス経営、子育て支援・家族支援の 実践力

児童教育コース卒業生への質問(回答 19 名)

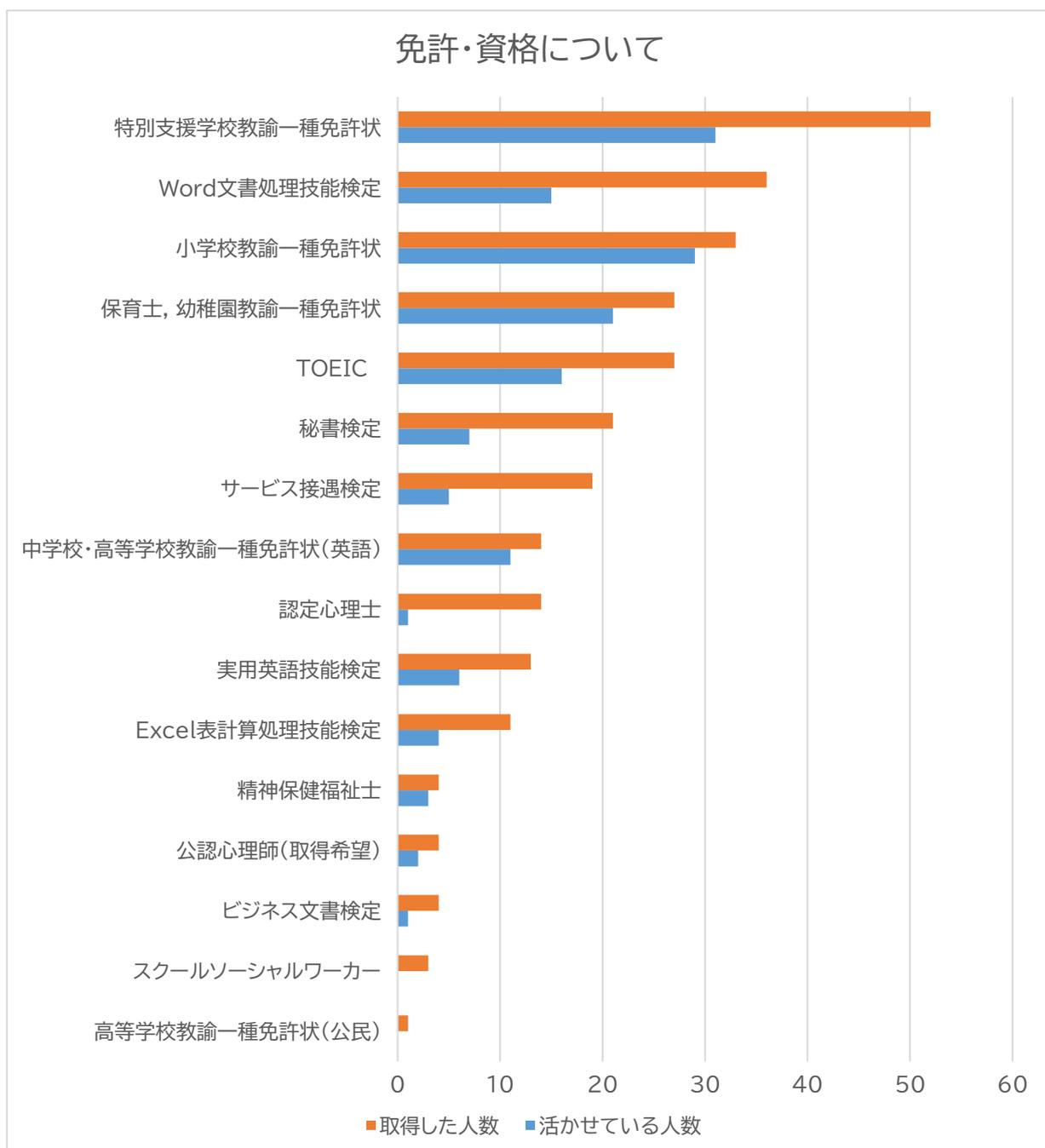
(1)	学校教育についての理解	教職の意義・理念・法規・教育史・社会的役割・地域の特色に関する理解
(2)	子どもについての理解	教育心理・教育原理・発達論・学習集団の形成・対応力に関する理解
(3)	他者との協力	他者意見の受容・保護者地域との連携協力・共同授業・役割遂行に関する理解
(4)	コミュニケーション能力	子どもに対する態度・公平・受容的態度・社会人としての基本・集団理解及び指導力
(5)	教科・教育課程に関する基礎知識・技能	各教科に関する基礎理論・知識・実践力・情報機器の活用・学習指導要領の理解
(6)	教育実践	教材分析能力・授業創造力・教材開発力・授業展開力・学級経営力に関する理解



心理臨床学科卒業生への質問(回答 39 名)

(1)	心理・教育・福祉についての理解	社会、思想・哲学、人権、ジェンダー、生命・医学などの幅広い視点で心理・教育・福祉を理解している
(2)	対象者についての理解	人間の発達的特徴や家族関係、障害児・者の特性、心の問題や精神疾患の特徴を理解している
(3)	心理臨床・特別支援教育・精神保健福祉に関する専門知識	心理職、特別支援学校、精神保健福祉士といった職種及び研究に必要な理論・思想が身に付いている
(4)	心理臨床・特別支援教育・精神保健福祉に関する専門スキル	心理職、特別支援学校、精神保健福祉士のいずれかに必要な査定・教育・援助・研究の技法や情報処理技能が身に付いている
(5)	他者との協力・連携	適切な感情・態度で他者やその立場を受容し、適切なマナーやルールのもとで他者と協力・協働できる
(6)	心理・教育・福祉の実践力と自己理解	自己および社会・現場を理解し、心理職、特別支援学校、精神保健福祉士のいずれかに関わる知識・スキルを活かした実践ができる

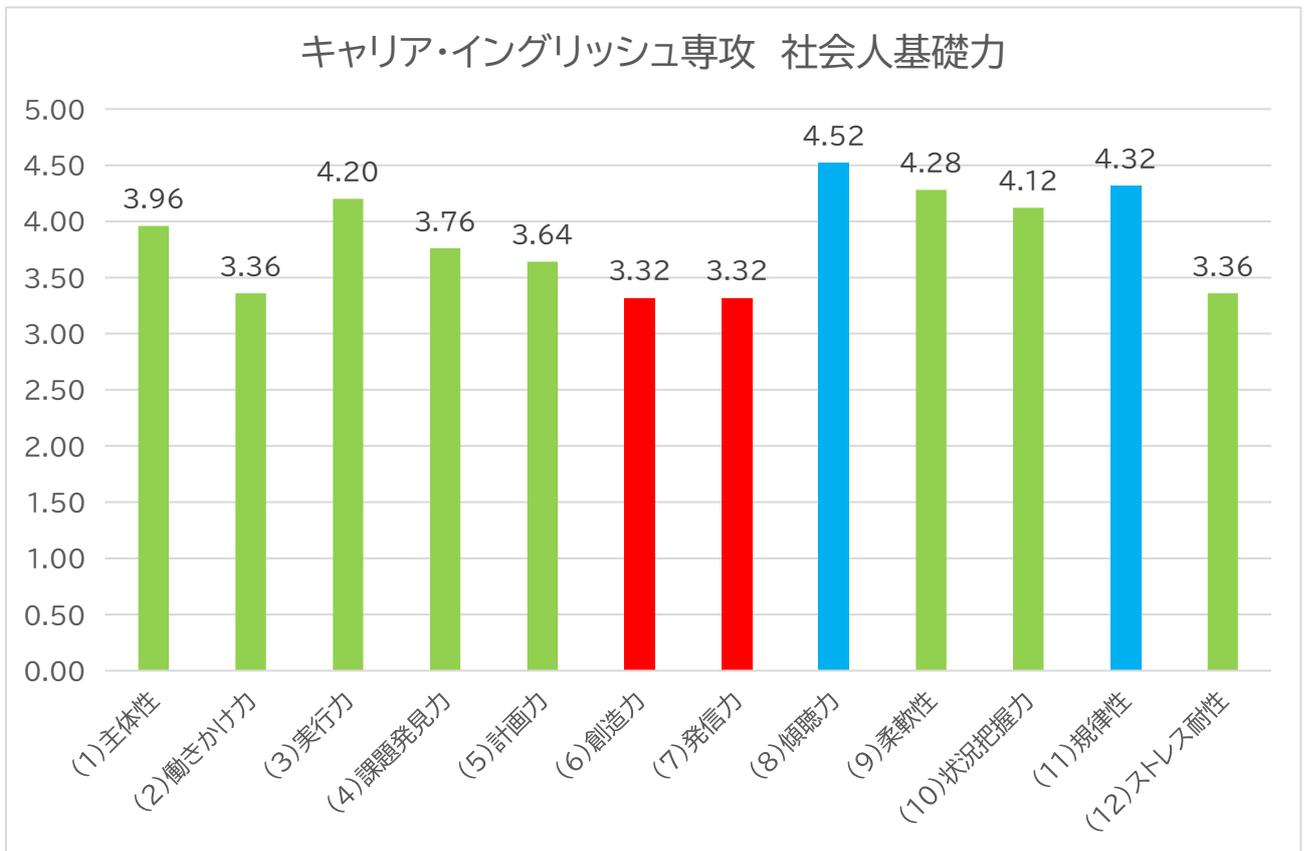
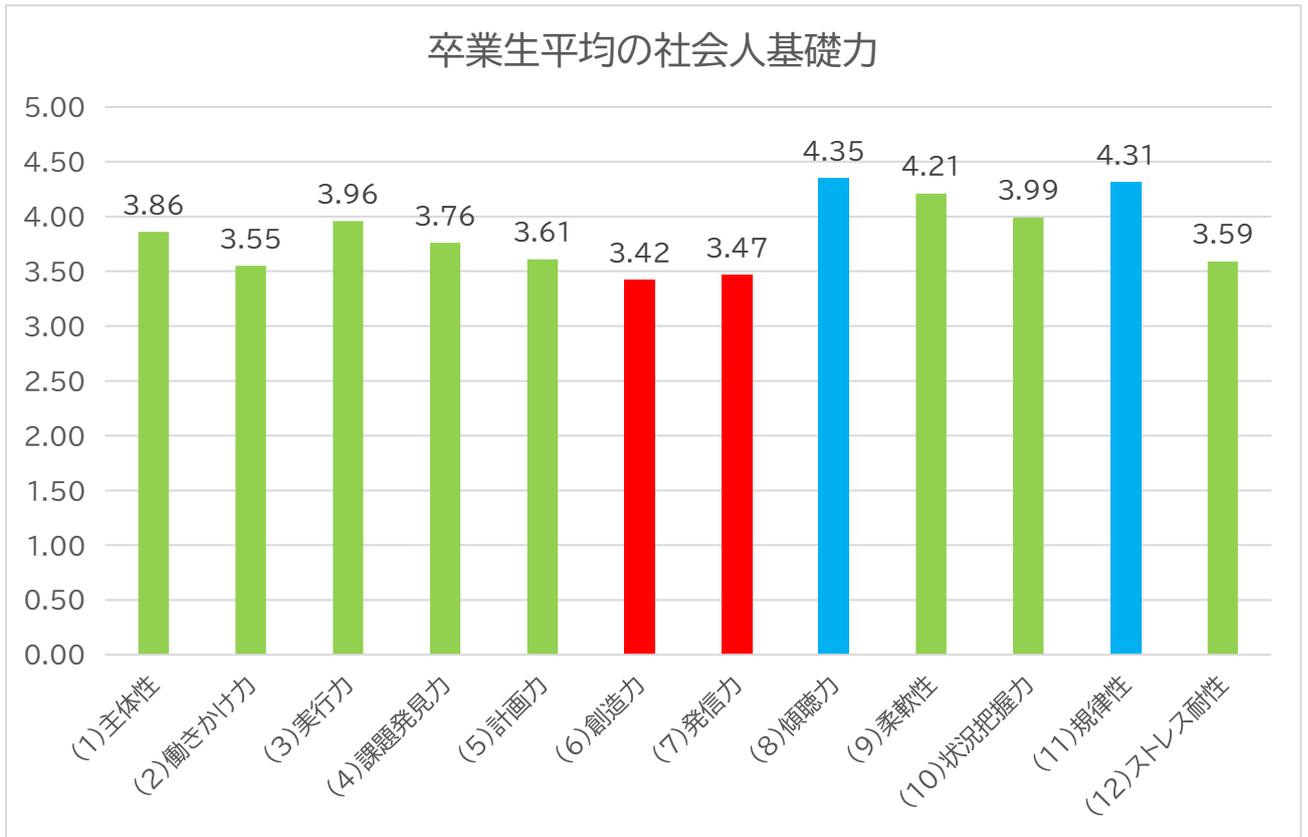
Q3-②③ 取得した免許・資格について、どれが活かされているか



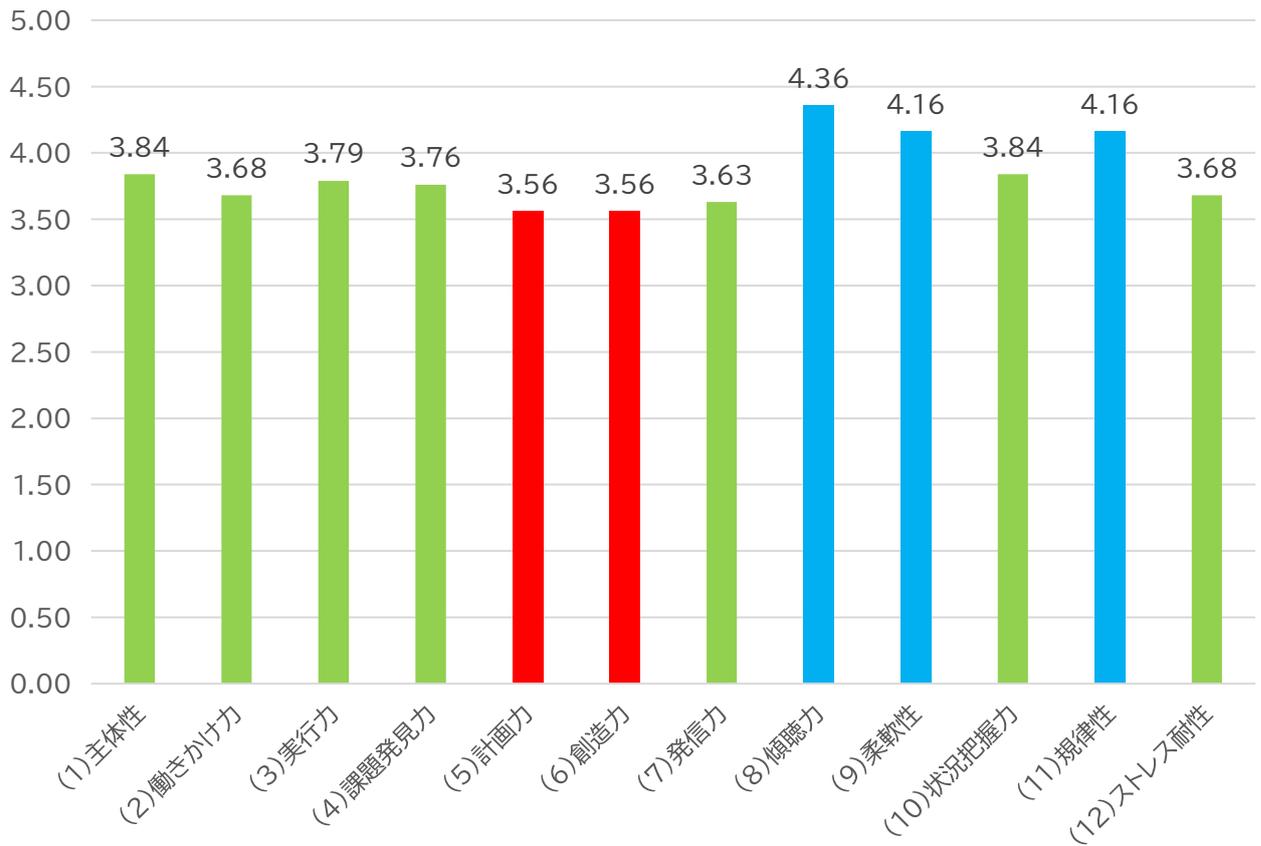
Q3-④ 社会人になって在学中に取得しておけばよかったもの

英語検定、幼保英語検定、TOEFL、TOEIC、IELTS、Word 検定、Excel 検定、簿記検定、宅建、FP、司書、秘書検定、公認心理師、社会福祉士、小学校英語指導者資格、造形教育士、特別支援学校教諭一種免許状

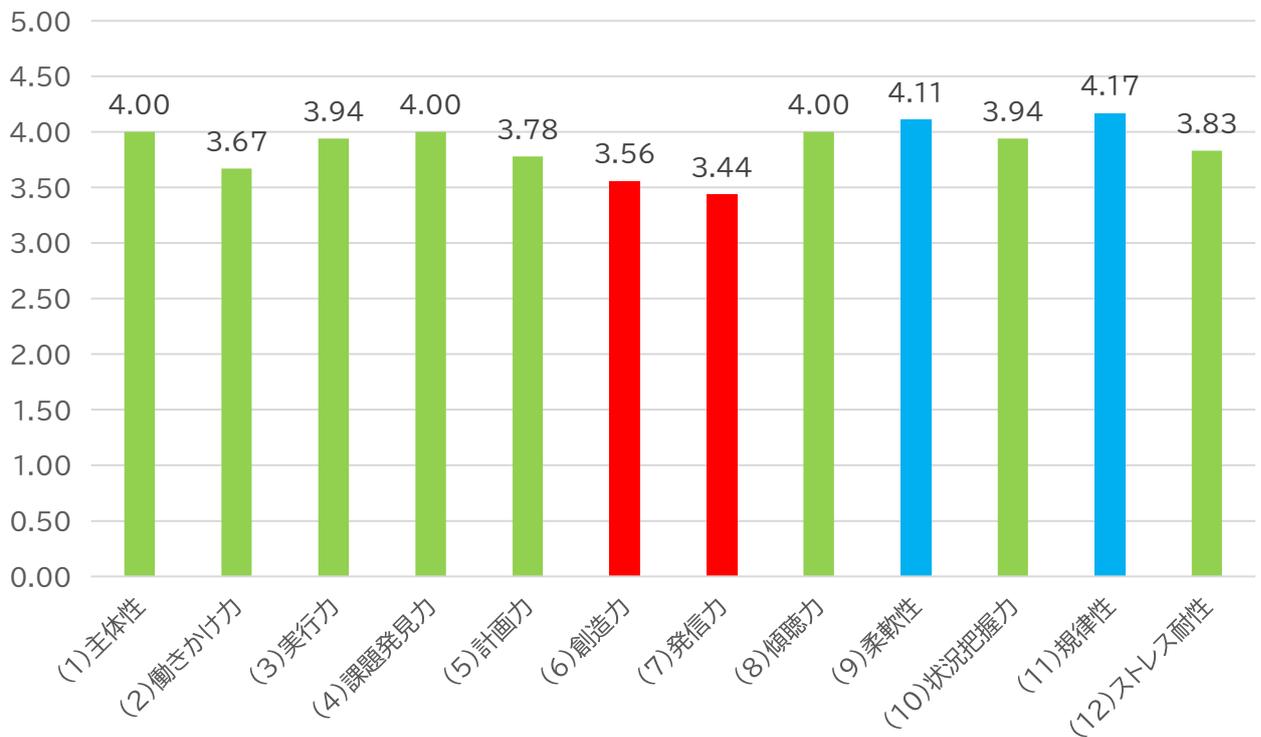
Q4-① 社会人基礎力を現在どの程度身に付けているか

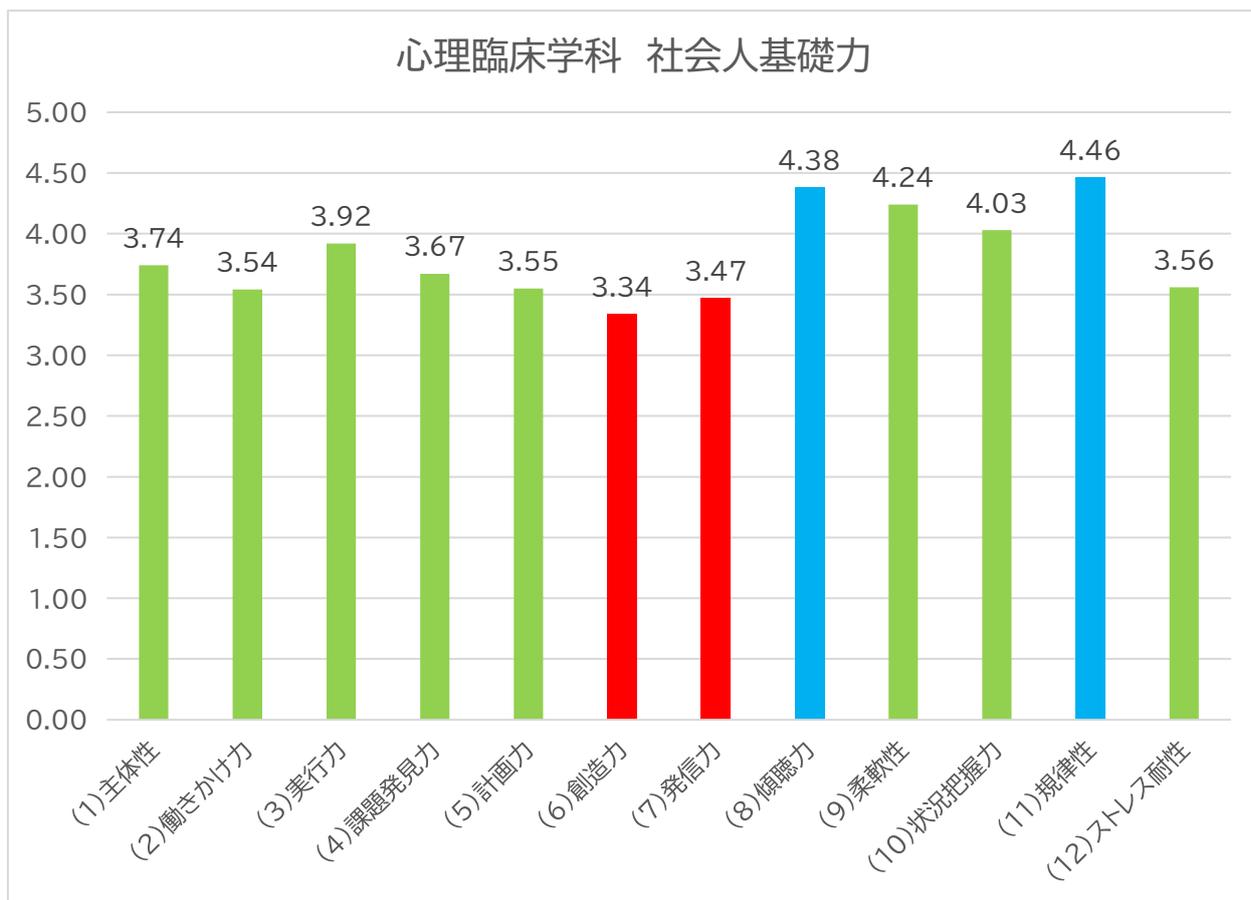


保育コース 社会人基礎力



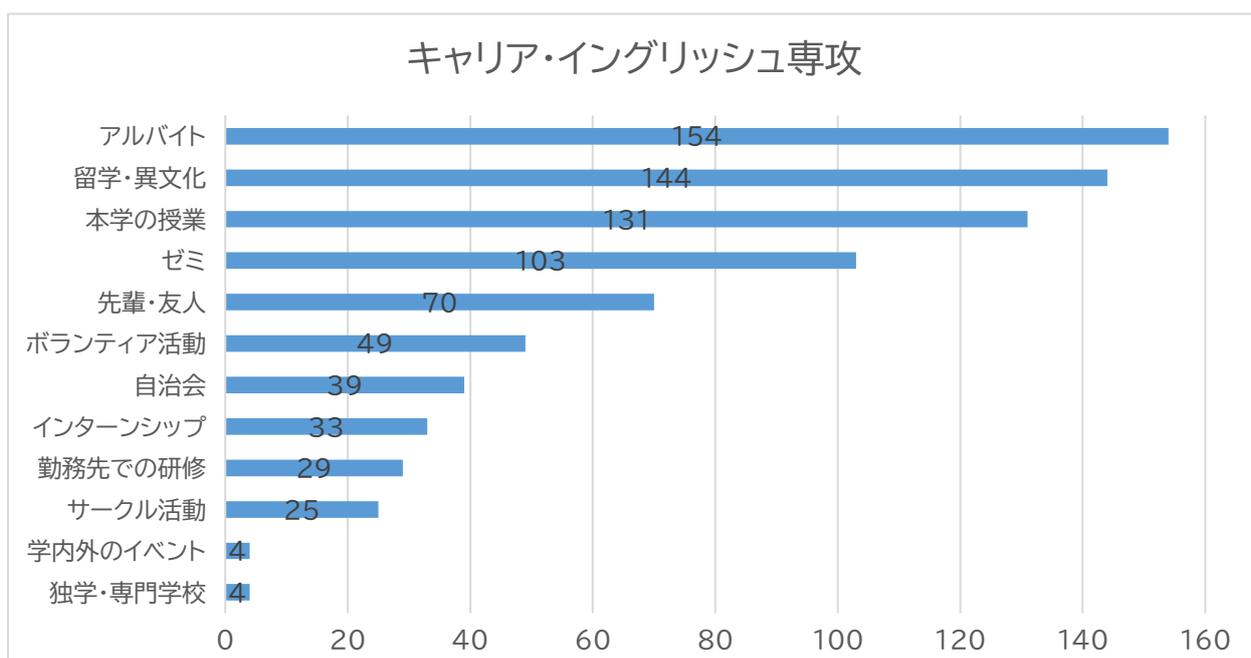
児童教育コース 社会人基礎力



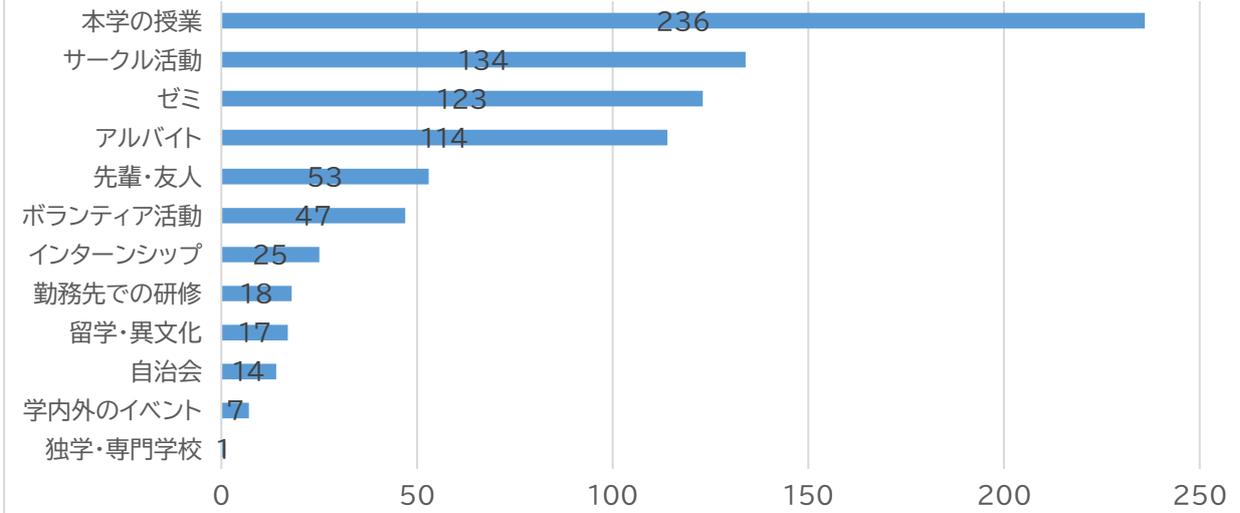


Q4-② 社会人基礎力を身に付けるのに何が役に立ったのか

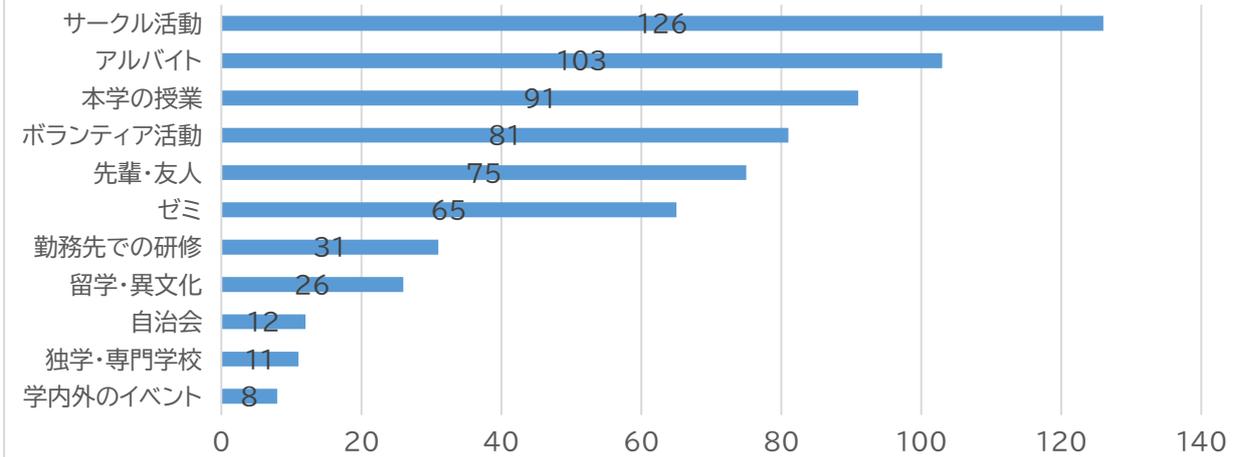
- 1 本学の授業 2 ゼミ 3 インターンシップ 4 留学・異文化 5 ボランティア活動
 6 サークル活動 7 アルバイト 8 先輩・友人 9 自治会 10 独学・専門学校
 11 学内外のイベント 12 勤務先での研修



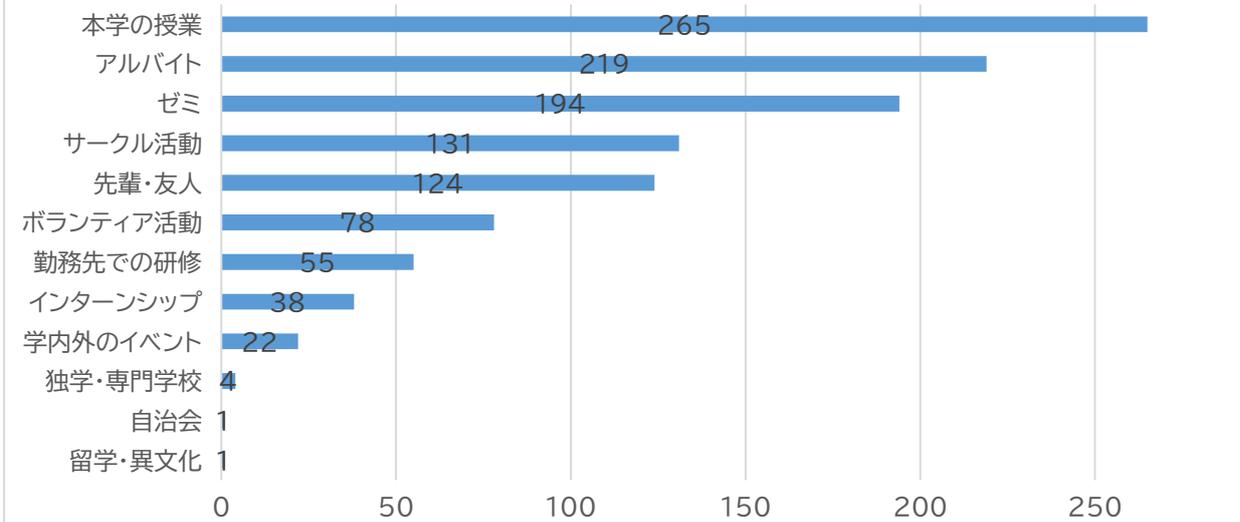
保育コース



児童教育コース



心理臨床学科



Q4-③ 実社会で必要と思われる社会人基礎力を 3 つ書いてください

順位	キャリア	保育	児童	心理
1	実行力	主体性	計画力	ストレス耐性
2	主体性	ストレス耐性	主体性 実行力	傾聴力 柔軟性
3	傾聴力 柔軟性	傾聴力 状況把握力	課題発見力	主体性

Q4-④ 社会人基礎力以外で、大学時代に身に付けておけば良かったことや、在学生に身に付けて欲しい能力や資質をあげてください

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・一般的な教養、共通教育科目を大切にする
- ・ビジネスマナー、ICT 活用、言葉遣い
- ・異文化体験
- ・コミュニケーション能力
- ・相手の立場に立って物事を考えること、自己的人権感覚を磨く

保育コース

- ・自分の好きなこと、得意なこと、興味があることを理解しておく
- ・英語力、判断力、決断力
- ・コミュニケーション能力
- ・上下関係の礼儀

児童教育コース

- ・笑顔
- ・創造力、課題発見力
- ・新しい事を始めてみる飛び込み力

心理臨床学科

- ・物事に対して、自分の意見を持つ
- ・電話でのマナー、保護者からの連絡帳への返事の手書き方・言葉遣い
- ・自己管理能力(心身共に)
- ・チームとして行動する力、チームワーク
- ・情報収集能力、目上の方とのコミュニケーション能力
- ・ストレス対処法、時間を守ること、ジャンルを問わず本を読むこと

Q5 仕事をする上での悩み、課題やそれを誰に相談していますか

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・目標としていることがなかなか達成できない、相談は今のところしていない
- ・アイデアが思いつかない時は、指導教官の先生に常に相談している
- ・勤務中になかなか仕事が終わらないことが悩み、家族に相談している
- ・自分の作業効率が悪いこと、仕事量に対して体力と時間が足りない、同級生に相談している
- ・常に仕事に追われている
- ・家族や友人、同僚、管理職に相談している

保育コース

- ・考えること、すべきことはたくさんあるが、それを行う為の時間がないこと
- ・判断を求められるが、判断を決定づけるほどの知識がなく、迷ってしまうことがある
- ・職場のジェネレーションギャップが大きく、子ども観、保育観、人権観など考え方や価値観が全く異なり、受け止めることが今もなかなかできず模索中です
- ・プライベートの区別ができず疲れがとれない、友達や同期、家族に相談している
- ・クラス運営のことで同級生に相談している
- ・悩みが解決せず、退職に向けて主任、統括園長、副園長に相談している
- ・悩みは同僚や同期、また同じ職種で働く友人に相談している

児童教育コース

- ・研究室の先生に相談している
- ・知的障害の心理に関する知識、アセスメントについて研究室の先生からアドバイスを頂きながら研究を進めています
- ・家族、上司、同期に相談している。
- ・教育実習では分からなかった教員の大変さが身に染みて分かります。大学で学びあった仲間と今でも連絡を取り合っています。切磋琢磨した仲間であり少人数だったことから深い仲になったと思います。

心理臨床学科

- ・自分の意見を他者に伝えること苦手で、後から後悔することが多い。上司や家族に相談している。
- ・この先心理師になれるかどうか不安。友人や先生に相談している。
- ・勤務時間について家族に相談している
- ・仕事量が多く同僚や友人に相談している
- ・ワーカー業務の細かいケースの悩みは先輩、同期に相談している
- ・学年部の先生、管理職、大学時代の友達に相談している
- ・管理職、学年部、歳の近い先生に相談している

Q6 大学時代に有意義だったと思う授業はありましたか

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・アドバンスコミュニケーションイングリッシュ
- ・春木先生の授業や憲法、現代社会の授業を受けていたおかげでニュースに関心が持てるようになった
- ・応用言語学、ゼミ、英語科教育実習 I が自分の今の専門の基礎になっている
- ・アカデミックライティングは生徒の英文添削時に役立っている
- ・英語科教育法は生徒への授業の展開を考えながら実践できる
- ・情報の授業や資格は社会人になって Excel や Word を使う機会が多く役立っていると思う
- ・コミュニケーションイングリッシュはコミュニケーションの取り方や、スピーキング力が身についた

保育コース

- ・保育関係、社会福祉関係、ピアノやオペレッタなどの実技の経験は役立つと感じる
- ・西先生の教育心理学。周りに褒めてもらうことで心が満たされた、ダッチアダムの映画が心に響いた。
- ・実践を踏まえた授業はページのめくり方や表現方法が役に立つ場面が多々あった
- ・自分の意見を整理し、発言したり、グループワークで情報共有した経験

児童教育コース

- ・キリスト教、食育論、理科演習、情報基礎、教育心理学、教育原論
- ・特別支援教育は、通常クラスの担任としても様々な面で生かされています
- ・各教科の模擬授業は授業の作り方の基礎を身につけることができたと思う
- ・坂本教授の理科の時間はグループ討論で議論しあう場を設けて頂いた

心理臨床学科

- ・「認知行動療法」自分が苦手とするタイプの人とも仕事上で関わらなければならず、ストレスに感じることもあるが、ストレスとの上手な付き合い方を学んだので、イライラせず仕事に向き合うことができる
- ・心理学統計法ではデータをどう読み解けばいいかが理解でき、データに基づいて物事を判断できるようになった
- ・教職関係の授業。現在小学校で勤務していて役立っている
- ・社会心理学人と関わったり社会で生活したりする上で、知っておくと便利(有利)なことが学べる
- ・「カウンセリングの授業」コミュニケーション時に、相手の輝きを見つけるようになり、いい関係性を築けるようになりました
- ・心理学や特別支援の授業は有意義でした。人と関わる仕事をしているので、人の気持ちや関わり方、支援について学べたのは今役立っています。
- ・心理査定法 数多くの心理検査に触れることができ、被検査者としての貴重な経験ができた
- ・ソーシャルワーク全般の授業。特に、氷山の一角モデルを学んだことは非常に有意義で今の自分の考え方の土台になっている
- ・心理臨床学科で学んだことで同期や後輩が悩んでいる時に対応できた

Q7 本学全般にわたってのご意見はありませんか

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・留学制度(特に長期留学)をもっと充実させてほしい
- ・先生方のサポートが手厚く、学生数も小規模なので、一人一人が大学生活を楽しめた
- ・本当に多くの先生方が一人ひとりに寄り添ってくださる、素晴らしい学校だと感じています
- ・海外との交流の時間がもっと欲しかった
- ・講義内容に興味があっても受講しても、一部の生徒に覇気をしたり、毎回説明がわかりづらい教員が何名かいたのが残念だった。講義終了後のアンケートにそのことを書いたが、実際に意見が反映されているのかよくわからなかった。

保育コース

- ・保育の学生も第二外国語を取ると、海外にルーツのある家庭との関わりのきっかけになったり、視野が広がるきっかけにもなるのではと思います
- ・リカレントを開いていただきありがとうございました。大学の先生に相談したいな、遊びに行きたいな、と思う反面、仕事との都合が合わず、コロナ禍ということもあり、なかなか行けていません。コロナが収束したらもっと気軽に行ける機会やお知らせやなにかあればいいなと思います。
- ・園に就職して壁面など自分で作るものが多かったので、在学中に作れる時間や使うことを知れたら準備できたのかなと思いました

児童教育コース

- ・先生になる人は英語が、必須だしどこでも役に立つので、もっとカリキュラムに英語を盛るとより良いと思います。大学としても英語に力を入れているというのは、色濃い特徴となって差別化出来ると思いました。
- ・今でも教員採用試験の対策に誘ってくれる程、気にかけてくれる先生に恵まれてありがたいです
- ・コロナ禍で仕方がないが、採用試験の勉強を学校で出来ず不満があった。学費を払っているのに授業がなく学校に来られず、市立図書館なども休館しており勉強する場所がなく家でするのは辛かった。その後、エカード会館で学習会をすることに許可が出た時は本当に嬉しかったし、ありがたかった。

心理臨床学科

- ・少人数制で先生や職員の方からのフォローがきめ細かく、じっくり学びを深めることができました。私は専門職には進まなかったものの、ルーテルでの学びが活着していると感じる事が多々あります。
- ・とてもアットホームな雰囲気ですごく助けていただきました
- ・感恩奉仕の考え方で、たくさん助けてもらった学生時代でした。人を助ける、助け合う大切さを学んだとても大事な学校です。
- ・もっと学生が主体となる活動が増えればと思います。サークル活動やその他のイベントなど主体的に考え先輩方と協力する活動が成長を生むと思いました。
- ・コミュニケーション能力をつける訓練をした方がいいと思います

*卒業生アンケートに対する各学科、専攻からの所感

キャリア・イングリッシュ専攻

コロナ禍の影響で、英語力を活かした海外留学や異文化体験が思うようにできなかったにも関わらず、学習成果として「多様性の理解」や、社会人基礎力を身に付けるのに役立ったこととして「留学・異文化」を上げている学生が多かったことから、大学での学びや様々な活動を通して多様な人たちと関わる能力が身に付き、それを現在活かすことができていることが伺える。一方で、社会人基礎力の「傾聴力」「柔軟性」「規律性」は身に付いているものの、「創造力」「発信力」「働きかけ力」が弱いことから、言われたことをこなすことはできるが、課題解決のために自ら働き、リーダーシップを取る能力が足りないことがわかる。その為、様々な課題を自分事として捉えることを意識しながら学べる取り組みが必要だと感じた。また、社会人基礎力を身に付けることとしてアルバイトが多かったですが、授業やゼミでの学びも社会で役に立っていると感じてもらっていることを嬉しく思った。

保育コース

最初に、保育コース卒業生の約9割がアンケートに回答していることに、学生の主体性があると評価しました。学び続けること、自身の成長を確かめること(自己理解)を大切にした成果だと考えます。保育コースの思いをキャッチしてくれたことは、大学での学びの何よりの成果として高く評価できると分析しています。また、職場での自分の置かれた立場についての悩みからは、高い意識を持って冷静に働いていることが読み取れました。悩んでもよいことを理解し、長く健康に働ける地盤を築こうと試行錯誤していることが、アンケート結果から裏付けられたと思います。今後、卒業後の研修会などを通して、改めて保育とは何かを学ぶ時間が、実践を豊かにしてくれると考えます。学生時代に「自分が大切にされる経験」は、保育現場において「子どもを大切にできる保育者」に直結します。保育コース一丸となり、学生を大切にし、卒業後を見据えた実践教育を今後も実施したいと思えます。

児童教育コース

全般的に高評価項目に関しては4年間の実践的なカリキュラムを通して学びを深めてきたことが活かされていることが伺われます。特に、子どもに対する態度・公平・受容的態度・社会人としての基本・集団理解及び指導力などを含めた「コミュニケーション能力」が最も高い評価を得ており、この力を元に活躍の場が今後更に広がることを期待しています。また、知的障害の心理に関する知識、特別支援教育に関する学びが通常クラスの担任としても様々な面で生かされているといった回答も見られました。これまで学生時代の特別支援に関わるサークル活動等の経験等も活かされていることがあらためて確認できました。一方で他の専攻・コースと同様に「創造力」と「発信力」が低評価であることが気になりました。教育現場においてもコロナ禍で様々な対応が求められるれば、そのための「創造力」等も必要となるでしょう。付随して教師自身のストレス緩和も一層課題となることが予想されます。「計画力」、「笑顔」が必要であるとの回答も見られ、今後もストレス・マネジメント教育やセルフ・ケアに関する講義にも注力すると共に、学生の卒業後を見据えた教育を実施していきたいと思えます。

心理臨床学科

心理臨床学科のディプロマ・ポリシー6項目中の4項目「心理・教育・福祉についての理解」「対象者の理解」「専門知識」「他者との協力・連携」において、4(概ね身に付いている)を超える高い評価が得られました。社会人基礎力では、「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」の評価が特に高くなっていました。心理臨床学科の卒業生には、他者や状況を誠実に理解し、協力・連携しようとする態度が身に付いていることがわかります。一方、「創造力」「発信力」「働きかけ力」など環境に能動的に働きかけていく力については、相対的に弱さが目立ちました。在学中に社会人基礎力をバランスよく身につけていけるよう、授業やゼミの中で「発信力」や「働きかけ力」を育む活動に意識的に取り組むとともに、ボランティアをはじめとする学外活動への積極的な参加を引き続き促していきたいと思えます。